

苫小牧港 西港区 商港地区 複合一貫輸送ターミナル改良事業 説明資料

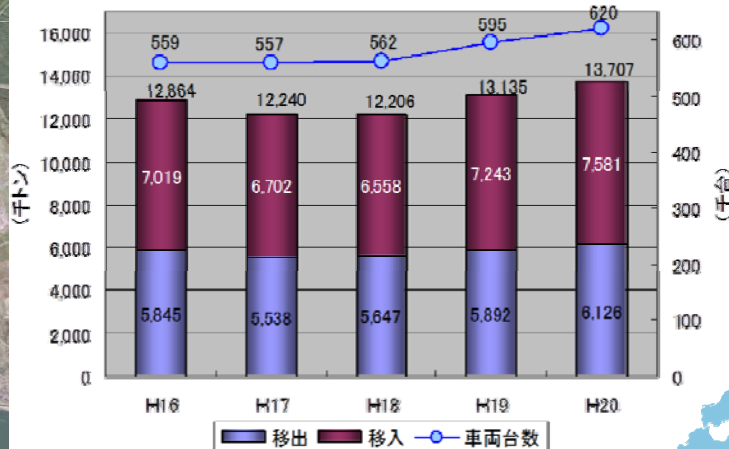
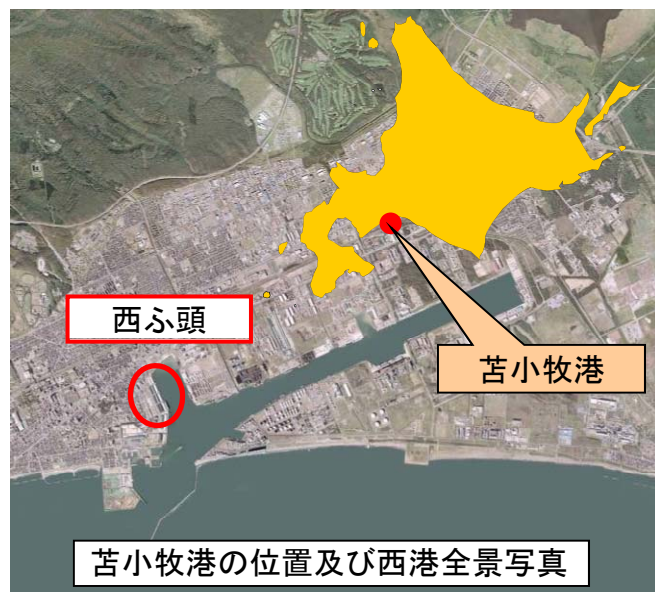
国土交通省 港湾局
平成22年8月

苫小牧港の概要

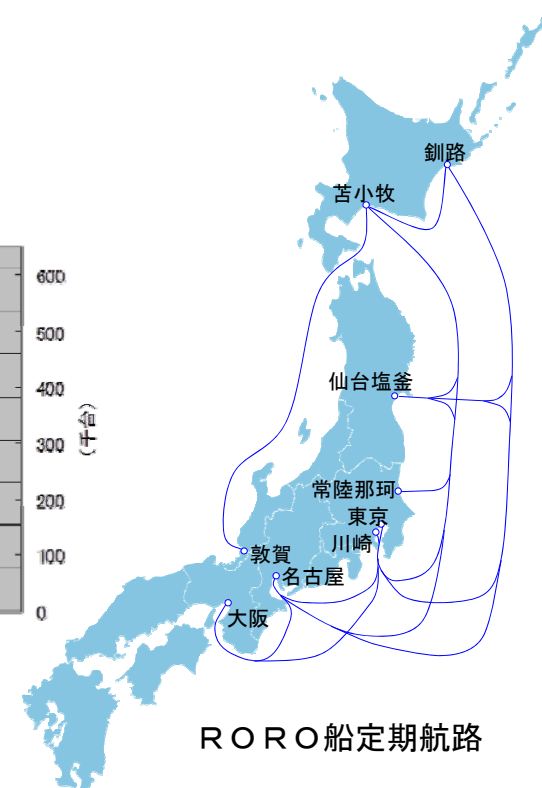
苫小牧港は、北海道の社会・経済の中心である道央圏の太平洋側に位置する特定重要港湾であり、北海道の港湾貨物の約5割を取扱うとともに、内貿貨物量については全国1位を誇る等、北海道はもとより、我が国の経済や産業を支える重要な役割を担っている。

特に苫小牧港は、全国とのRORO船ネットワークが形成されており、週36便のRORO船が就航している。苫小牧港背後で生産される新聞紙用紙（全国の約1/3）や自動車部品の移出とともに、北海道の完成自動車全量の移入に利用され、近年、その取扱量は増加している。

事業を実施する苫小牧西港区西ふ頭は、RORO船貨物を取扱う拠点として、週14便（苫小牧港全体の約1/3）のRORO船が就航している。



苫小牧港のRORO貨物



RORO船定期航路

事業の概要

【事業の目的】

苫小牧港西港区西ふ頭複合一貫輸送ターミナルにおいて、老朽化した岸壁（4バース）を改良することにより、安定的な輸送の確保や物流の効率化を図り、合わせて岸壁の耐震強化により大規模地震時の海上からの緊急物資輸送機能を確保する。

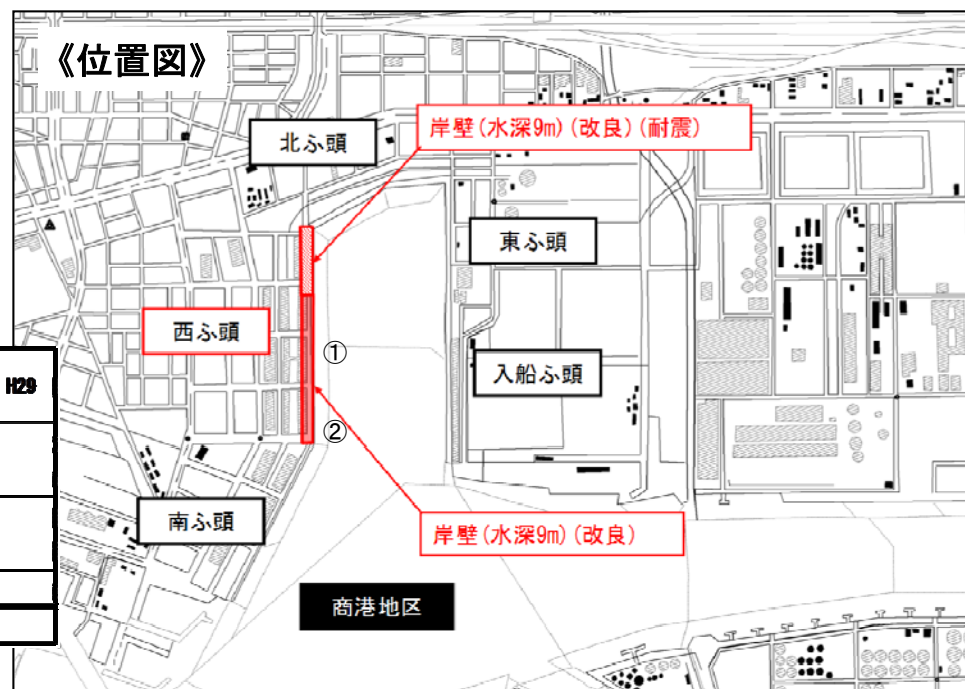
【対象事業】

整備施設：岸壁（水深9m）（改良）（耐震） 220m×1バース、岸壁（水深9m）（改良） 220m×2バース

事業費：約94億円

《事業スケジュール》

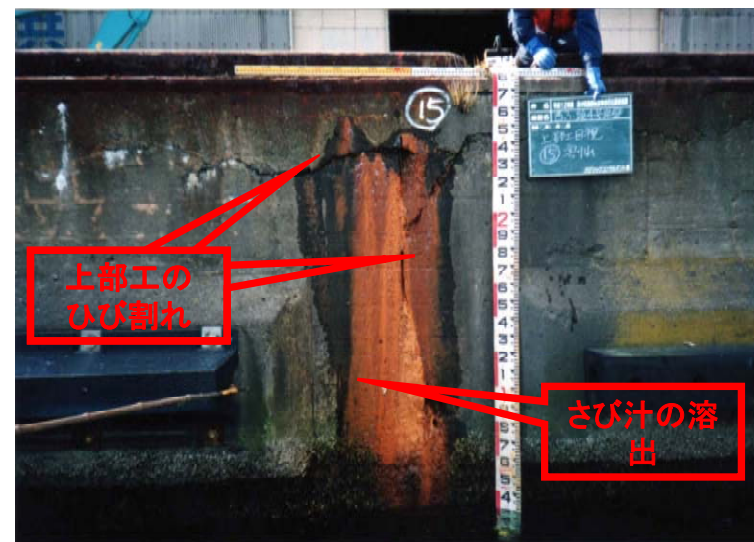
事業区分	地区名	施設名	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
直轄事業	西港区 西港	岸壁（水深9m） （改良）（耐震）							
		岸壁（水深9m） （改良）①							
		岸壁（水深9m） （改良）②							



事業の必要性

【①施設倒壊危険性の解消】

- ・当該ふ頭は昭和36年～43年に建設された施設であり老朽化が著しく、施設倒壊の危険性が非常に高まっている。
- ・このため、老朽化対策を実施し、港湾利用者の安全の確保を図るとともに安定した輸送の確保を図る。



上部工の劣化状況

【②狭いエプロン幅への対応】

- ・当該ふ頭は一般貨物船対応の施設として整備されたため、エプロン幅が狭くトレーラによる荷役に支障を来しており、非効率な荷役を強いられている。
- ・このため、エプロン幅を15mから25mに拡大し、物流の効率化を図る。



非効率な荷役作業

事業の必要性

【③震災時における緊急物資輸送機能の確保】

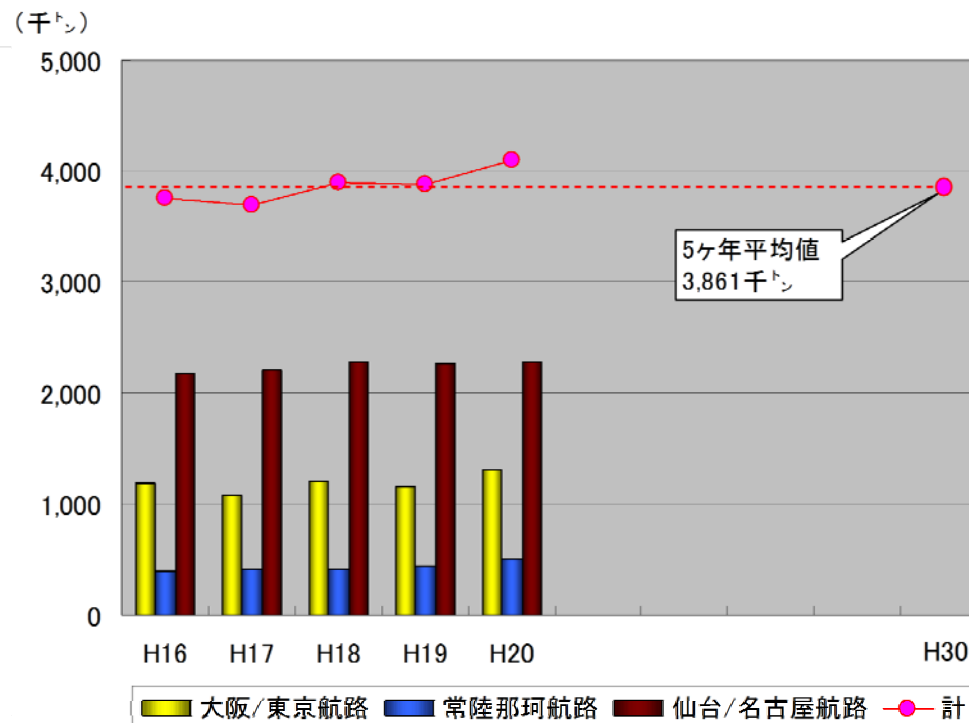
- ・ 苫小牧港では耐震強化岸壁が整備されておらず、大規模地震時において、海上からの緊急物資輸送が確保されていない状況にある。
- ・ 苫小牧港の内貿貨物量は全国一位となっており、大規模地震が発生した場合、苫小牧市のみならず、我が国の産業活動に影響が及ぶことから、耐震強化岸壁を早急に整備する。



需要の推計

【RORO貨物量】

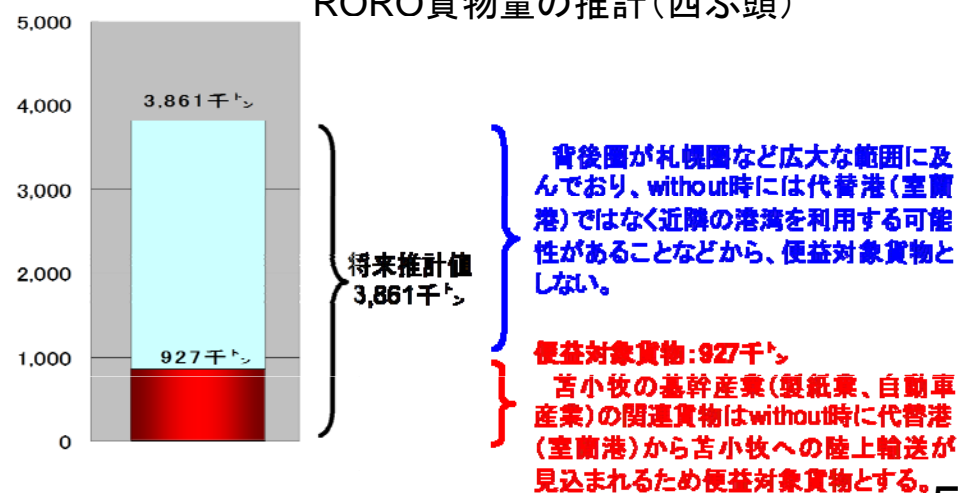
- 他港でのRORO船航路の一部廃止（H22.4）により、この航路で扱われていた貨物が苫小牧港の利用に転換しているといった増加要因があるもののRORO貨物量は、直近5ヶ年概ね横ばいで推移しているため、直近5ヶ年の実績値平均を将来推計値として設定。



RORO貨物量の推計（西ふ頭）

【便益対象貨物の考え方】

- 需要予測で算出した3,861千トンのうちwithout時に代替港（室蘭港）から苫小牧への陸上輸送が見込まれる苫小牧に立地している基幹産業の関連貨物927千トンを便益対象貨物として設定。

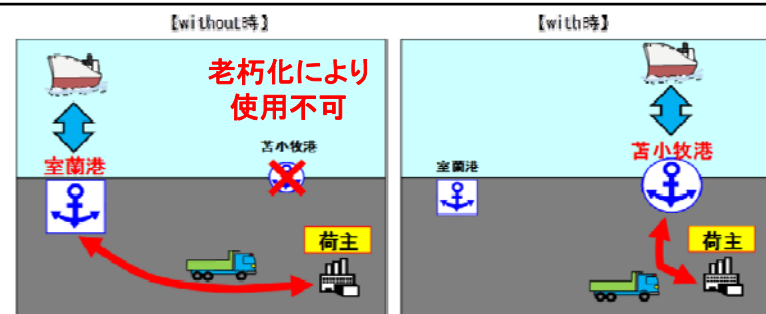


費用便益分析

【便益計算】 便益 (B) = ①+②+③ = 342億円 (現在価値化後)

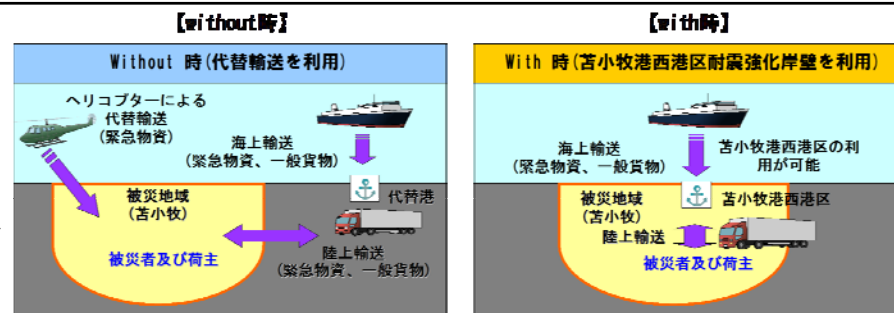
① 輸送コストの削減 336.6億円 (現在価値化後)

岸壁の改良により、岸壁の効率的かつ安全な利用が確保され、代替港の利用による輸送コスト増大が回避されるため、輸送コストの削減分を便益として計上する。



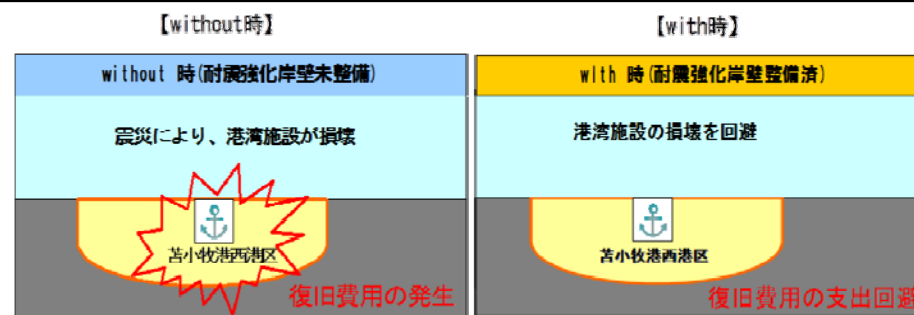
② 震災時における輸送コストの削減 2.9億円 (現在価値化後)

岸壁の耐震強化により、大規模地震発生時における物資の輸送コスト増大が回避されるため、輸送コストの削減分を便益として計上する。



③ 施設被害の回避 2.9億円 (現在価値化後)

岸壁の耐震強化により、震災時に損壊を免れることができ、復旧のための追加的な支出を回避することができる。この追加的な復旧費を施設被害の回避便益として計上する。



【費用計算】 費用 (C) = 事業費 + 管理運営費 = 78億円 (現在価値化後)

【費用便益分析結果】 費用便益比 (B/C) = 342 / 78 = 4.4

貨幣換算が困難な効果

【①RORO貨物の荷役効率化】

エプロンの拡幅により、トレーラーの安全な走行や荷役時間の短縮が図られ、安全かつ効率的なRORO船荷役が確保される。

【②地域の安全・安心確保と産業活動の維持】

岸壁の耐震強化により、震災時における背後住民の不安を軽減することができる。

また、震災時においても物流が維持され、我が国の産業活動の維持が期待される。

港湾管理者からの意見

【苫小牧港港湾管理者（苫小牧港管理組合）からの意見】

平成22年8月10日付け国港計第26号にて意見照会のありました件につきましては、母体である北海道及び苫小牧市から、当該事業を予算化することについて了承を得ており、特段の意見はありません。

なお、苫小牧港西港区商港地区につきましては、岸壁の老朽化および船舶の大型化に対応できないバース割りなど非効率な荷役をしいられています。このような状況下であるため港運業者、船社から早期の改善要望が強く、平成23年度の新規事業として改修整備要望しておりますので、事業が予算化されますよう、よろしくお願い申し上げます。